

伊 豆 大 島

○火山活動度レベル（平成 18 年 3 月）

1（静穏な火山活動）

○概況（平成 18 年 3 月）

長期的なマグマの注入によって考えられる島全体の膨張傾向が継続していますが、火山活動には特段の変化はなく静穏に経過しました。

○噴煙の状況

大島北西外輪に設置した遠望カメラでは、三原山火口からの噴煙は観測されませんでした（図 2）。

○地震及び微動の発生状況

火山性地震の発生回数は少なく、静穏に経過しました（図 1、2）。火山性地震の震源は三原山周辺の浅いところと島の北西部の深さ 3～4 km に分布しています。火山性微動は観測されませんでした（図 2、図 3）。

○地殻変動の状況

GPS 連続観測および光波距離計¹⁾による観測では、山頂カルデラを挟む 2 つの基線（図 4－①～②）で現在も島全体の膨張を示すわずかな伸びの傾向が続いています。一方、島の北西側の基線（図 4－③～⑤）では、2000 年頃から長期的な伸びの傾向が停滞しています。

1) 光波距離計を用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定し、山体の膨張や収縮による距離の変化を観測しています。

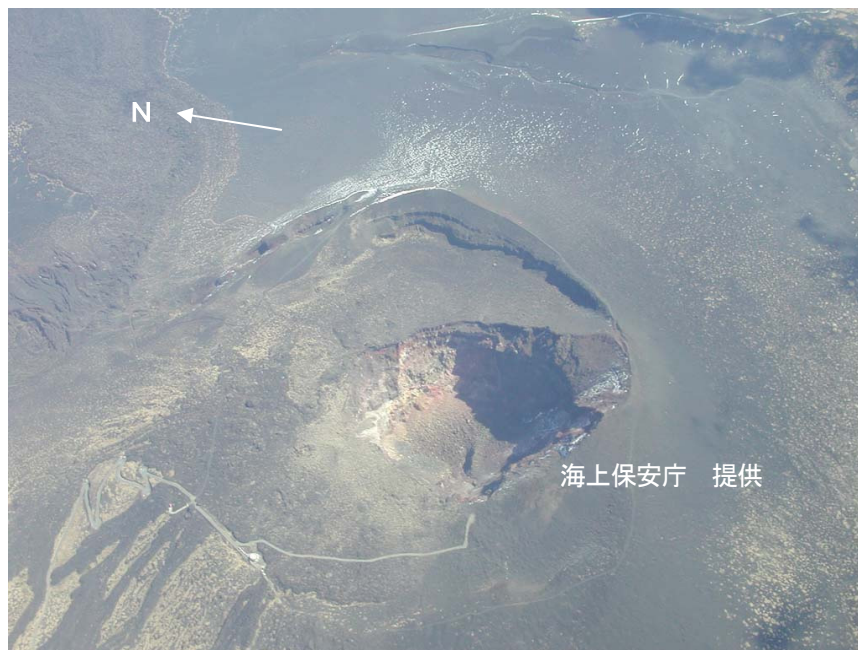


図 1 三原山火口の状況（2006 年 3 月 14 日、大島上空から撮影）

※この資料は気象庁のほか、海上保安庁、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』、『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

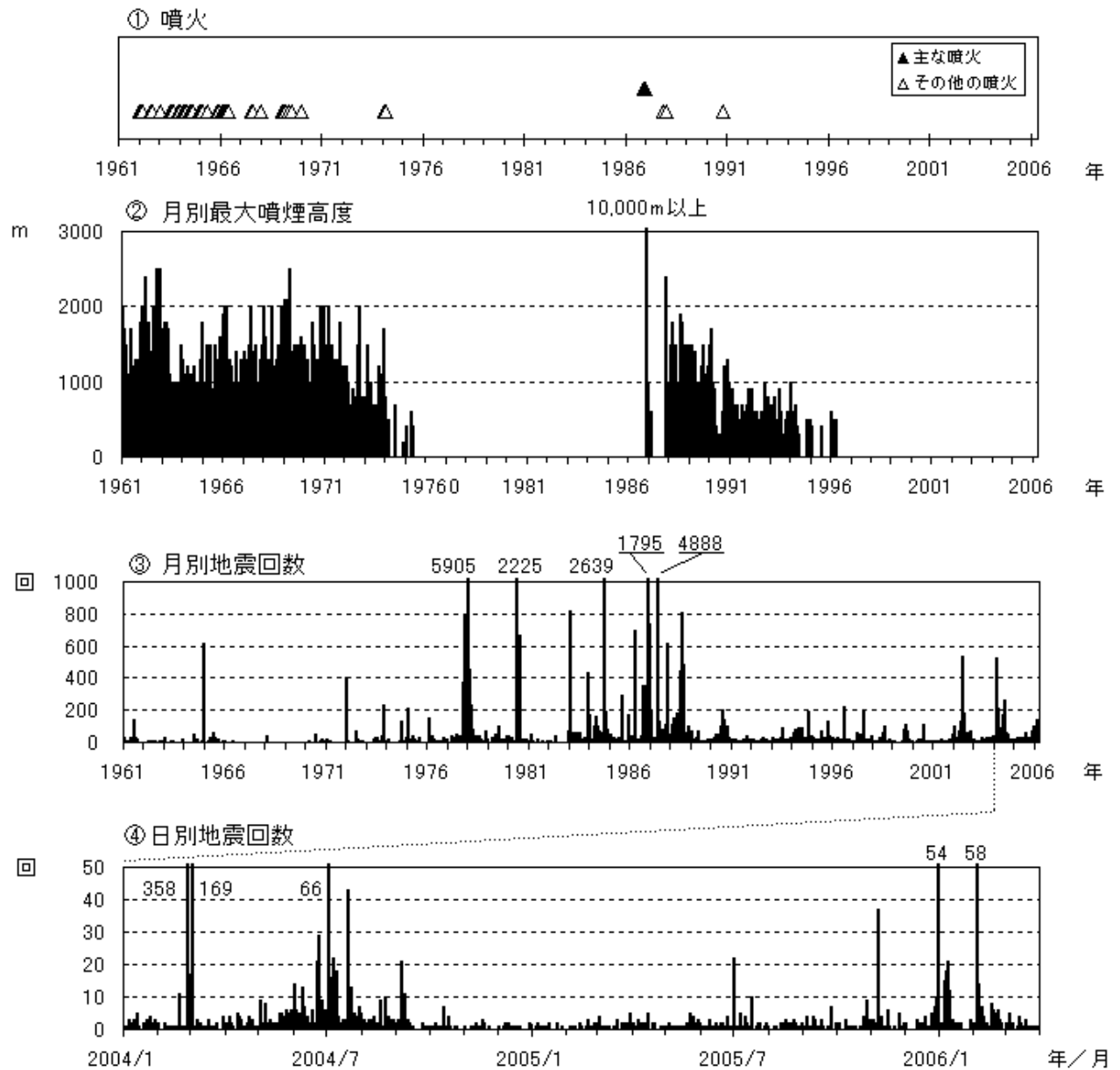


図2 伊豆大島 火山活動経過図

①～③：1961年1月～2006年3月

④：2004年1月1日～2006年3月31日

注) 地震回数には、「1978年伊豆大島近海地震」の余震活動など、伊豆大島周辺の構造性地震も含まれています。

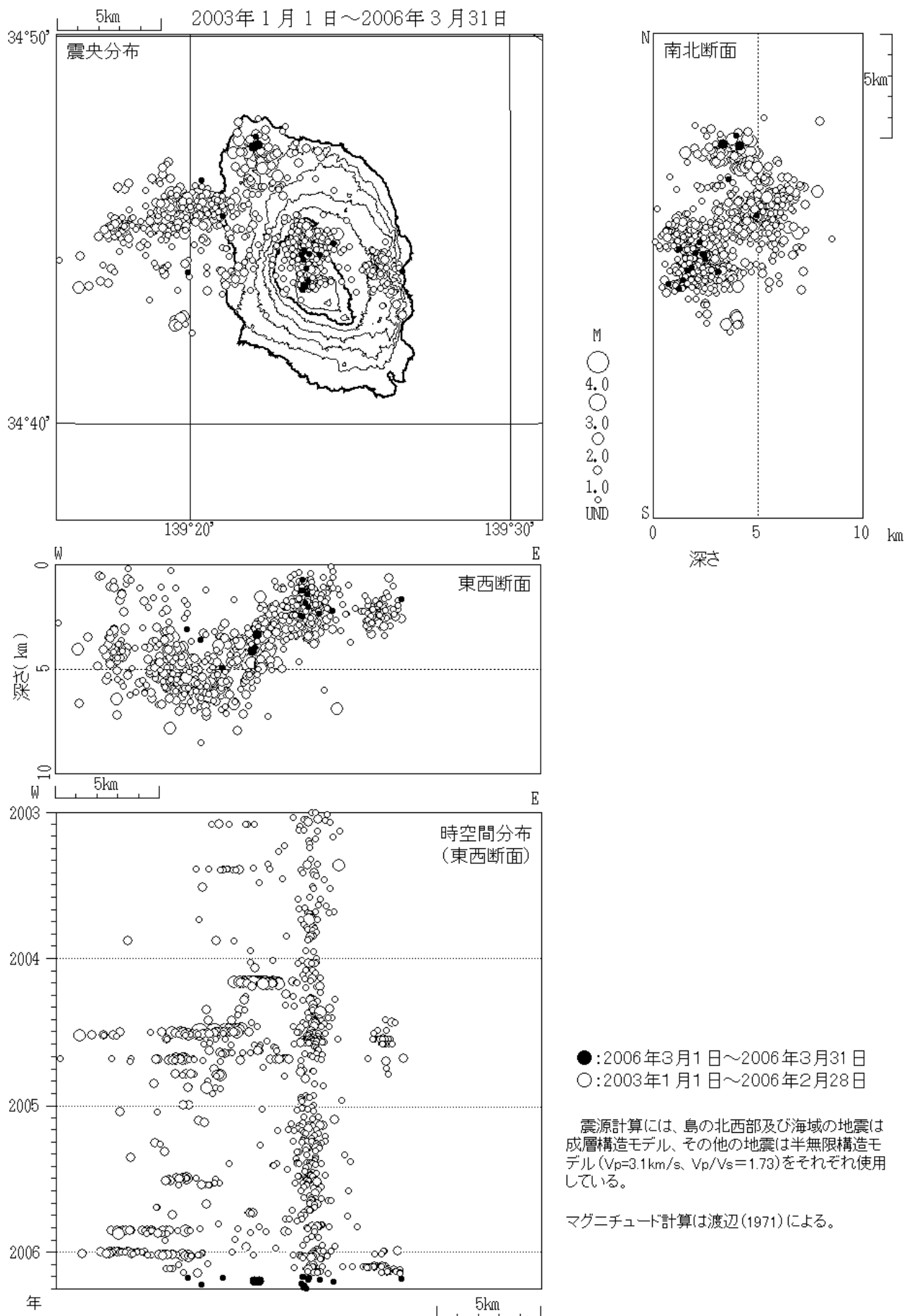


図3※ 伊豆大島 震源分布(2003年1月1日～2006年3月31日)

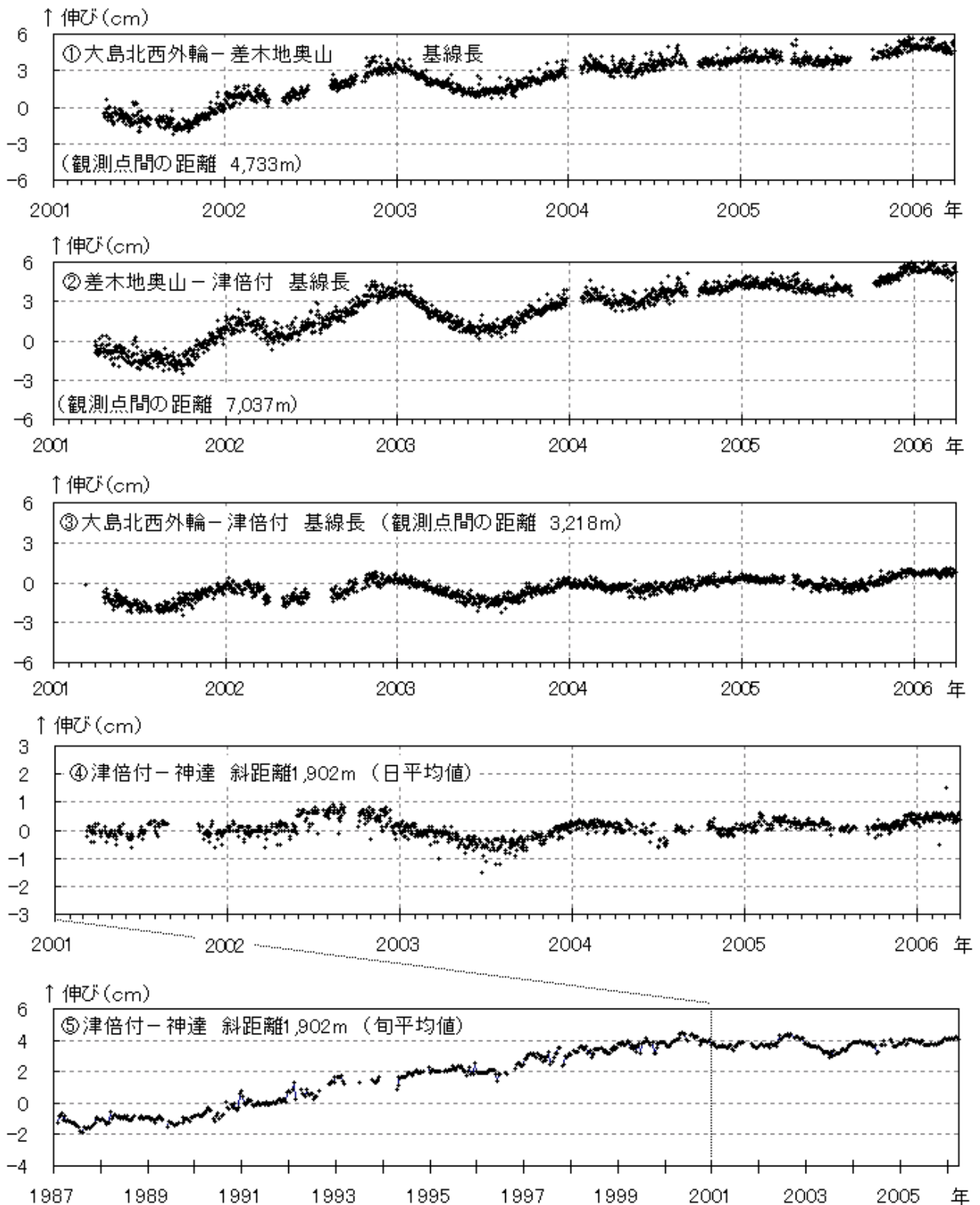


図4 伊豆大島 GPS連続観測による斜距離変化、および光波距離計による津倍付－神達間の斜距離変化（①～③は図5のGPS基線①～③に対応しています）

- ①～③：GPS連続観測 日平均値（2001年3月7日～2006年3月31日）
- ④：光波測距観測 日平均値（2001年3月1日～2006年3月31日）
- ⑤：光波測距観測 旬平均値（1987年1月～2006年3月）

○観測点情報

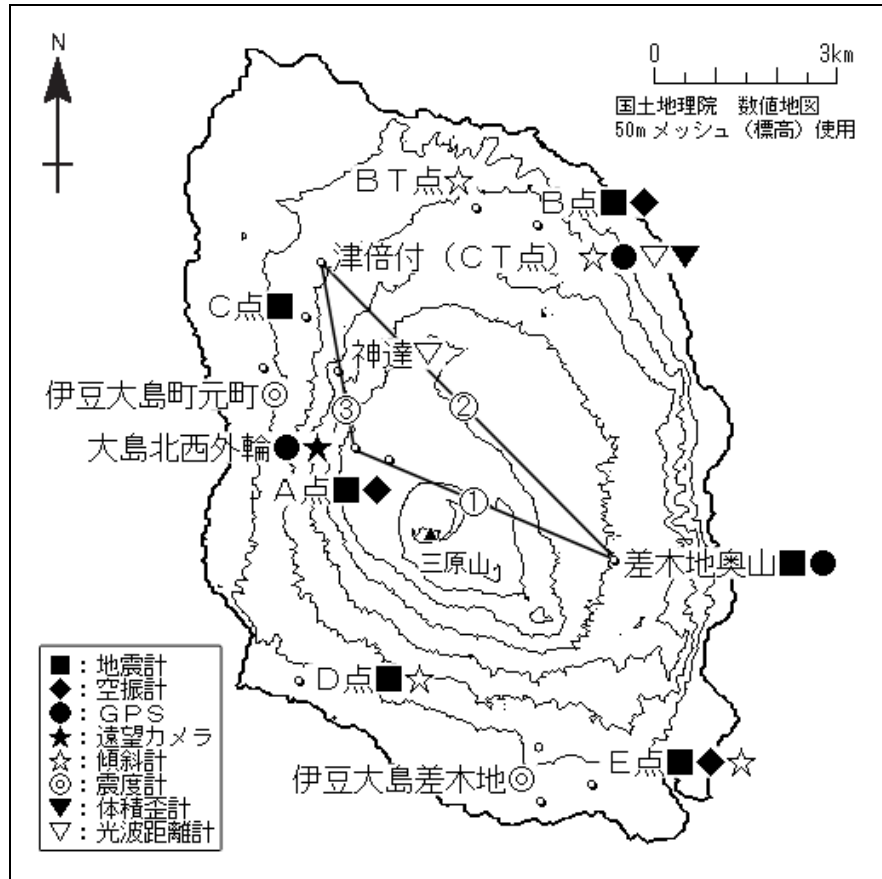


図5 伊豆大島 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）